



All Japan Road Race Championship 2022  
**RACE REPORT**

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

Round

5

Tsukuba

■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦  
 筑波大会

茨城県・筑波サーキット (1周=2.070km)

6月26日(日): 公式予選・決勝

観客動員数: 3,000人

**J-GP3クラス #9 小合 真士 (SDG Motor Sports Jr. Team)**

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 15番手 (タイム: 1分00秒960) 決勝: 12位

**MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清**

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 13番手 (タイム: 1分06秒605) 決勝: 12位 (インタークラス: 9位)

**MFJ CUP JP250 国際クラス #27 石井 千優 (SDG N-PLAN Racing)**

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 4番手 (タイム: 1分05秒454) 決勝: 2位 (インタークラス: 優勝)

**マイスター 250クラス #69 橋本 卓哉 (使い手レーシング@SDG&N-PLAN)**

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: PIRELLI

予選: P.P. (タイム: 1分06秒743) 決勝: 3位

1 Motegi

2 Suzuka

3 Autopolis

4 Sugo

5 Tsukuba

★ Suzuka 8H

6 Autopolis

7 Okayama

8 Suzuka



**猛暑に見舞われた筑波ラウンド**



全日本ロードレース選手権第5戦が茨城県・筑波サーキットで開催された。今回、全日本はJ-GP3クラスのみとなりSDG Motor Sports Jr. Teamの小合真士がエントリー。MFJ CUP JP250には、SDG Motor Sports RT HARC-PRO.の赤間清、SDG N-PLAN Racingから石井千優が出場。さらに今回初開催されたマイスター250に、バスプロの“ハシタク”こと橋本卓哉が使い手レーシング@SDG&N-PLANから初参戦した。

石井とハシタクは、木曜日のスポーツ走行からレースウイークに入り、マシンの状態を確認。ハシタクは、約30年前にミニバイクやS80などに参戦した経験はあるものの、筑波サーキットのライセンスを取ったのが今年の3月。昭和電機・柏木社長所有のHonda CBR250RRで走り始めたものの、1分08秒台真ん中でタイムが伸び悩んでいた。そこでN-PLAN中釜氏に相談にマシンをメンテナンスしてもらい、ECUのセットアップ、さらにライディングの改善点もアドバイスしてもらい問題点が明らかになってきていた。



マイスター250 #69 Takuya Hashimoto

金曜日は、一気に気温が上がり真夏のような暑さに見舞われる。前日まで好調だった石井だったが、フィーリングが変わってしまいタイムが出ない。一方、赤間は、この日から走り始め、いろいろマシンセットを試しながらペースを上げていき調子は上々だった。



JP250 #71 Kiyoshi Akama



J-GP3 #9 Ogo Shinji

J-GP3クラスの小合は、金曜日に転倒があり、走行も少なかったが、土曜日のART合同走行では電気系のトラブルを抱えながらも8番手までポジションを上げてきていた。JP250の石井は5番手、赤間は15番手、マイスター250のハシタクは3番手に付けていた。

今回は、日曜日の午前中に公式予選が、午後には決勝レースがあるワンデースケジュール。最初に予選が行われたマイスター250では、ハシタクが目標にしていた1分06秒台に突入。1分06秒743をマークし2番手となっていたが、トップタイムを出していた選手がペナルティを受けたためハシタクがトップに昇格。ポールポジションからスタートすることになる。

**石井千優が初優勝！ バスプロ・ハシタクが意地の3位！！**



15周で争われた決勝。ハシタクはスタートで出遅れてしまい1コーナーでは5番手。さらに立ち上がりで1台にかわされ6番手となるが、第1ヘアピンまでに2台をかわして4番手につけオープニングラップを終える。レース序盤は#15大根田選手との3番手争いを繰り広げていたが、前に出ると、その差を広げていく。厳しい暑さの中、10周目にベストタイムをマークし、そのまま3位でチェッカー。表彰台が上がって見せた。



J-GP3 #9 Ogo Shinji

J-GP3クラスの小合は、1年振りに走る筑波に苦戦。それでも混戦の中で周回を重ねていた。そして最終ラップにアクシデントが発生したため23周終了時点でレースが成立。小合は12位となり4ポイントを積み重ねる結果となった。



JP250 #27 Chihiro Ishii

そして、この日最後に行われたMFJ CUP JP250のレース。石井が4番手、赤間は13番手グリッドからスタート。ポールポジションスタートの#62井手選手がレースを引っ張るかと思われたが、2周目にマシントラブルでリタイア。かわってトップに立った#56山根選手がリードしていたが、3周目の1コーナーで2番手に上がった石井が後続を引き離してトップに迫っていく。その差は、一時は1秒を切り、総合優勝も射程に入れていたが、トップを走る#56山根選手はNatクラスということもあり、そのまま総合2番手でゴール。Int(国際)クラスではトップとなり、見事に初優勝を達成した。一方、赤間は、集団の中でバトルを繰り広げ決勝中に自己ベストを更新。レース終盤にペースを上げることができず集団から離されてしまうが総合12位でゴール。国際クラスは9位となった。



JP250 #27 Chihiro Ishii



JP250 #71 Kiyoshi Akama



■赤間清コメント  
「5月に一度、練習にきましたが、レースウイークに入ってから、いろいろセットを試しました。予選では実績のあるセットに戻して自己ベストを更新。決勝でも目標としている集団につけていましたし、自己ベストもさらに詰めることもできていましたが、レース終盤にペースを上げることができなかったことが反省点でした。次戦は、集団の前に出ていけるように対策を考えます」



■石井千優コメント  
「ようやく優勝することができ本当にうれしいです。今年からコラボレーションさせていただいている昭和電機株式会社の皆さんを始め、多くの方に応援してもらったおかげです。いつも千葉北サーキットで教えているポケバイライダーの前で勝つことができたことも、よかったですね。また、次戦も頑張ります。よろしくお願いたします」



■橋本卓哉コメント  
「目標の最低ラインとしていた表彰台に上がることができて、本当に良かったです。これも支えていただいた多くのおかげです。特にN-PLAN中釜氏には、マシン面、ライディング面、セッティング面と何から何までお世話になりました。暑い中、応援してくださった皆さん本当にありがとうございました」



マイスター250 #69 Takuya Hashimoto